

2020（令和2）年度 学校関係者評価委員会報告書

2020年度外部アンケートに関する所見

- 1) 今年度は、子どもたちの健康と安全を第一に考え、新型コロナウイルス感染症が園内で発生拡大するのを防止することに最大限努めてきた。結果、多人数が集まることを制限したり中止したりせざるを得なかったため、「総合学園としての長所」を生かした行事や総会等での教育保育目標の説明が十分にできなかった。また表現活動の集大成である生活発表会も多くの保護者に生でご覧いただけなかったこと等が「表現活動」の評価に反映されたものと考え。次年度も引き続き新型コロナの影響が考えられるが、今回の評価をもとにより良い対応を探りたい。また、昨年度より教職員のより良いワークライフバランスの実現を目指し業務改善を推進しているが、今年度も入園を勧める比率 95.6%の高評価をいただくことができた。優秀な教職員が長く仕事を続けられる環境整備が、保育の質のさらなる向上につながると考えるので、次年度もバランスを取りながら教育保育の量から質への転換を進めたい。
- 2) 今後も保護者のみなさまから寄せられている期待と信頼に応え、より質の高い教育・保育内容を提供できるよう教職員一同取り組みたい。特に預かり保育へのご意見については、保護者のみなさま・子どもたちにさらに安心してご利用いただけるよう次年度も改善に努めたい。

【今年度の園の取り組み全体へのご意見と次年度の課題】

関係者評価委員会の意見	次年度への取り組み課題
<p>今年度は、コロナ禍で例年どおりの教育保育ができない状況だったので、保護者アンケートの満足度が低い項目（総合学園長所、表現活動、栽培等）はあまり参考にならないかと思う。これらのことは、行政等の自粛要請に従い止むを得ずできなかったことであるため、コロナ禍による自粛要請が解除され、世の中が落ち着いた後に徐々に再開を検討していただければ良いと思う。</p> <p>幼い時から ICT 機器を活用した経験は、今後成長するとともに子どもたちの知識と自信につながるの、アナログにも良いところはあるが、これからも時代に先駆けどんどん取り入れるべきだと思う。</p> <p>先生方が自己評価をとて厳しくつけられているのが気になる。全園児に同じレベルのことをしないと満点ではないという意識（高い意識を持つことは大切であるが）ではなく、ひとりひとりの子どもがそれぞれの発達段階に応じて楽しんだり、少し興味を持つことが増えたり、いきいき取り組めたりできていれば、よくできたと考えて良いのではないかと思う。余裕を持って長く勤務でき、経験を積んで全体がさらに力のある先生方になれば良いと思う。</p> <p>今年度は参観等で直接保育室に行く機会はなかったが、動画配信で参観時とは違う自然な子どもの様子が見られとても良かったと思う。</p>	<p>今年度も教育保育の質の向上を図るべく日々意識をして取り組んできた。特にこれからの世の中の動きを考え ICT を活用した教育保育の取り組みを積極的に行ってきた。この点について保護者のみなさまに一定の評価をいただき非常にうれしく思っている。</p> <p>今年度も昨年に続き教職員のワークライフバランスと新しい教育保育要領への対応という観点から、現在の教育保育カリキュラムの見直し変更を図った。そのことについても予想以上の評価を得ることができたと考える。</p> <p>他の項目と比べてポイントの低かった「総合学園としての長所」はコロナ禍であり連携先もあることなので早急な改善は困難であるが、読み聞かせや科学遊びなど可能なものからさらに充実を図りたい。今年度は今までのような教育保育を行うことが非常に難しかったが、PTA 役員をはじめ保護者のみなさまのご理解ご協力を得て、行政の指示による緊急事態宣言下の保育の制限以外、1日の休園もなく開園できたことは感謝に堪えない。次年度も園がさらに発展するよう今年度のご意見を参考に日々研鑽を続けたい。</p>